

# “三宝鳥は靈山・高野山のシンボルの鳥”

「仏・法・僧」と鳴き、嘗ては高野山では三宝鳥と称され、靈鳥として崇められた鳥。空海も漢詩に有り難い鳥として謳われていて、比叡山など各地の深山幽谷の靈山に棲む鳥として人々から広く崇められていた。昼間はブッポウソウを見て、夜はコノハズクを耳にしていた時代、榎本佳樹先生もそのお一人だったのでは？



高野山高校の校章は三宝鳥の羽根をモチーフにしている。高野山中学校と同じ図案、中⇒高に変更。作者は・・・？



“江戸時代の三宝鳥、夜には仏・法・僧と鳴くとされていた。法は仏の教え、僧は教えを伝える人。”



“仏・法・僧”は、空海がつくった日本で最初の聞きなしとみられる。



紀伊国名所圖會 卷之六  
一八五

” 奥の院御廟の鳥 ”

○靈鳥 昔より御廟の辺りに一雙の鳥あり。眼金色にして足の爪青し。名付けて天鳥という。今に御供所より日々餌を与う。俗に熊野鳥という。

○仏法僧鳥 一名に三宝鳥という。当山及び日光、比叡、松尾鳳来寺などの深山に産す。この鳥雄は形鳩のごとく瘦せて小さく尾の端黒色、嘴細く脚とにも赤色なり。鳴く声はブッポウソウという。

江戸時代末期に編纂された地誌